



リポジトリ DB 運用変更手順

■ ごあいさつ

このたびは弊社製品 DataAnyware 2.0 をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。

本書内で、各製品を以下名称で記述してご説明して参ります。

DataAnyware 2.0	本製品
DataAnyware 2.0 Server	Server
DataAnyware 2.0 Studio	Studio

本書は、リポジトリ DB 適用の手順についてご説明しています。

ご使用の際にお読みください。

なお、表示画面などは操作の一例として掲載しているものです。お客様のご使用環境によっては、画面に表示される内容が異なる場合がありますので、ご了承ください。

■ 版權／ご注意

- 本書に記載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複写転載することを禁じます。
- 本書に掲載の内容および製品の仕様などは、予告なく変更されることがあります。

本書の内容は万全を期して作成しておりますが、万一ご不明な点や誤り、記載もれ、乱丁、落丁などお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。

(C) 2007-2010 JB Advanced Technology Corporation. All rights reserved.

目次

■	ごあいさつ	2
■	版權／ご注意	2
1.	リポジトリ DB 移行ガイドについて	4
2.	マーク説明	5
2.1.	このマニュアルで使用しているマークについて	5
3.	手順	6
3.1.	バックアップ	6
3.2.	環境のエクスポート	6
3.3.	リポジトリ DB の設定	9
3.4.	環境のインポート	14
3.5.	注意事項	16

1. リポジトリ DB 移行ガイドについて

本ドキュメントは本バージョンで追加された機能である「リポジトリ DB」の適用手順を示したものです。

2. マーク説明

2.1. このマニュアルで使用しているマークについて

本マニュアルでは、以下のマークを利用して説明を進めていきます。

	操作手順の始まりを示します。
	本文中で説明している内容に関連する説明がコラムとしてまとめられています。必要なときにお読みください。
	機能や操作手順に対するメモを示します。
	操作上の注意や機能の制限事項を示します。必ずお読みください。
	前リリースバージョンと比較して、新規に追加された機能であることを示します。
	機能や操作手順に対する補足的な説明を示します。

また、説明は次の規則に沿って行われています。

- 画面に表示されるメニュー名、タブ名、プロパティ項目名および値、ボタン名は[]で囲んで表します。また、それ以外の機能名やプロパティウィンドウのタイトル、名称のないものは「」で囲んで前者と区別しています。
- `${dataanyware.home}`は DataAnyware をインストールしたディレクトリを表します。 デフォルトでは、「C:\Program Files\DataAnyware」となります。
- <と>で囲まれた名称は、可変であることを表します。
例:`${ dataanyware.home}/server/logs/<日付ディレクトリ>`

3. 手順

3.1. バックアップ

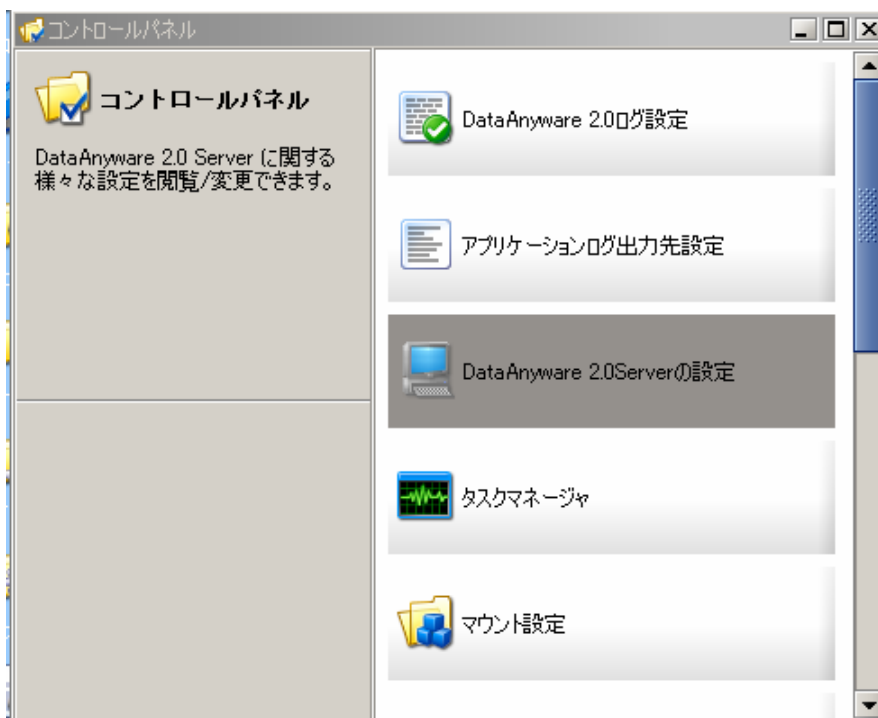
`${dataanyware.home}` をコピーして、フォルダ名を `DataAnyware.bak` と変更してください。

3.2. 環境のエクスポート

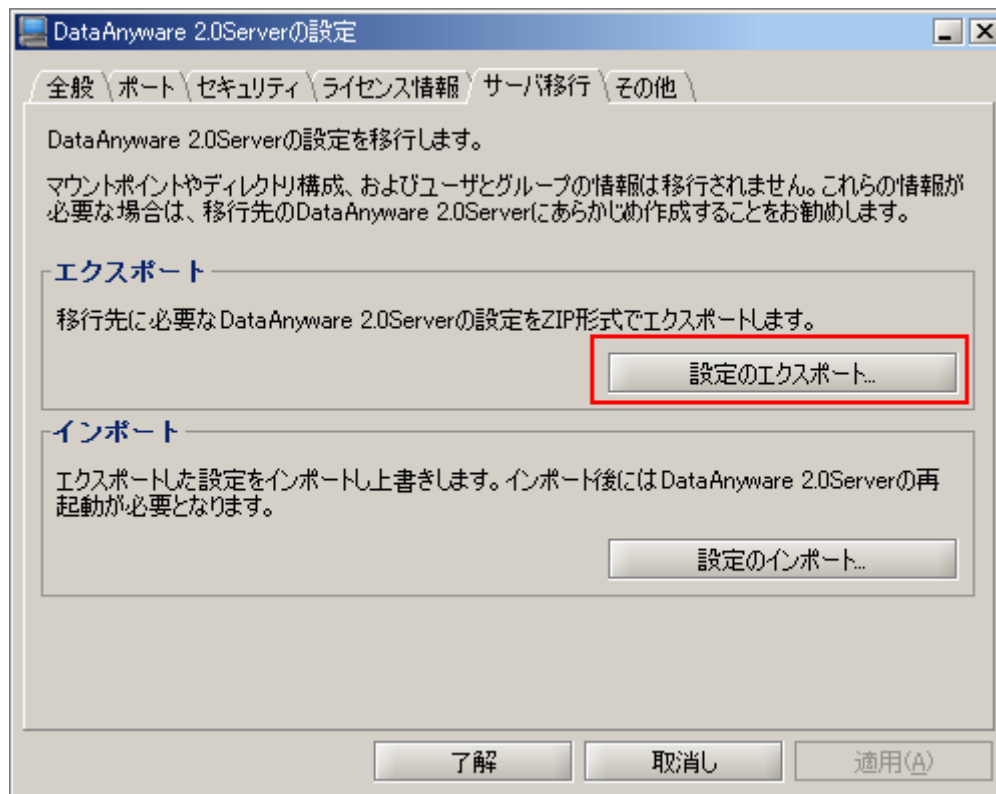
環境のエクスポートを行います。以下、Studio 上から環境のエクスポートを行う手順を記述します。



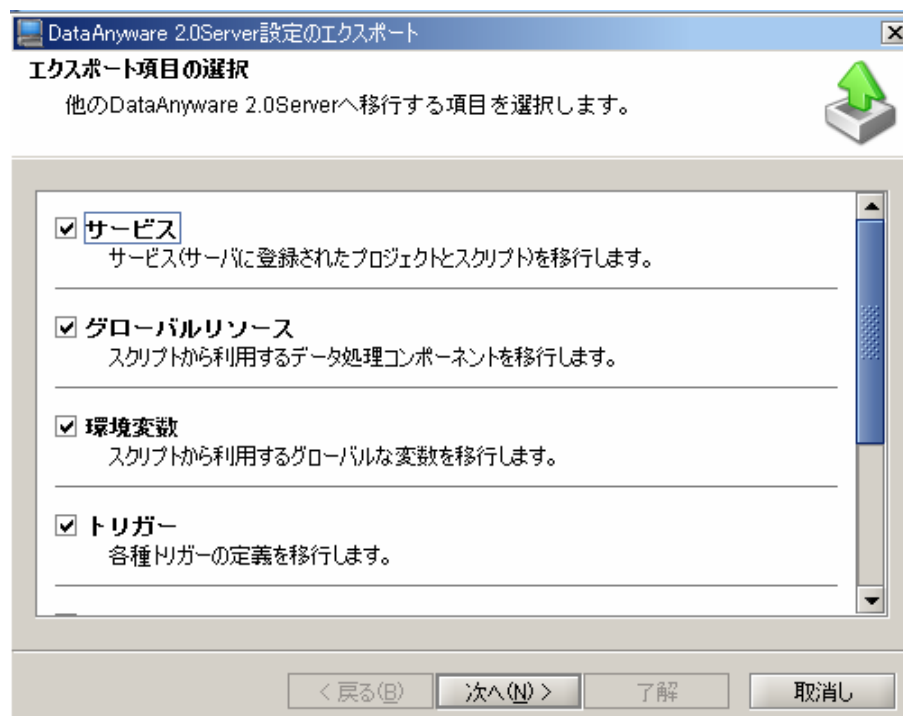
Server を起動し、ログインを行ってください。



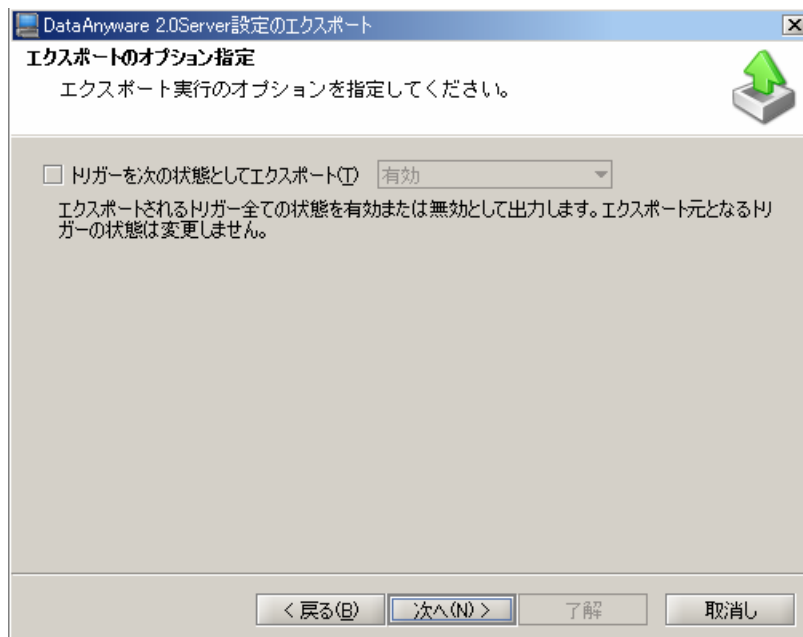
[コントロールパネル]-[DataAnyware 2.0 Server の設定]を選択してください。



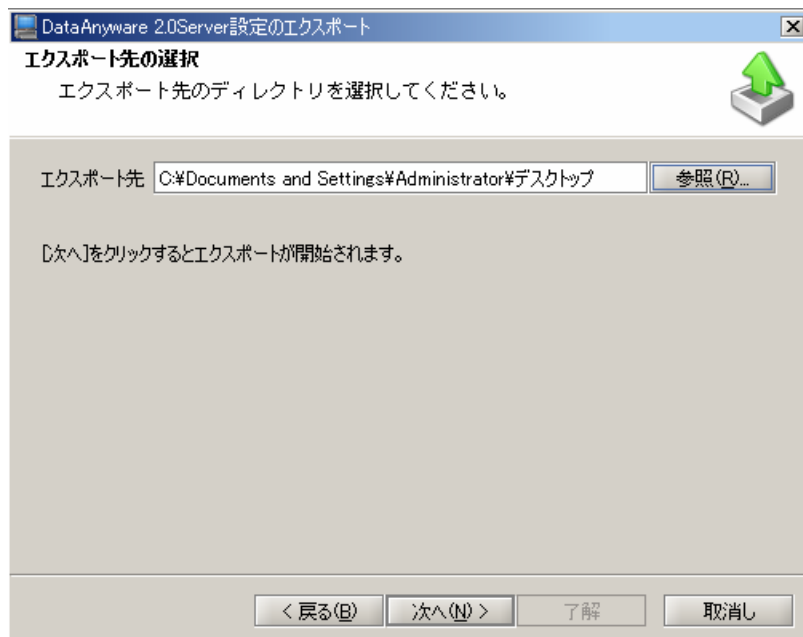
「サーバ移行」タブを表示して、[設定のエクスポート]ボタンを押下してください。



設定のエクスポートで以下の網目を移行できます。デフォルトですべてにチェックがはいっていますので、必要ない設定がある場合チェックを外して、[次へ]ボタンを押下してください。



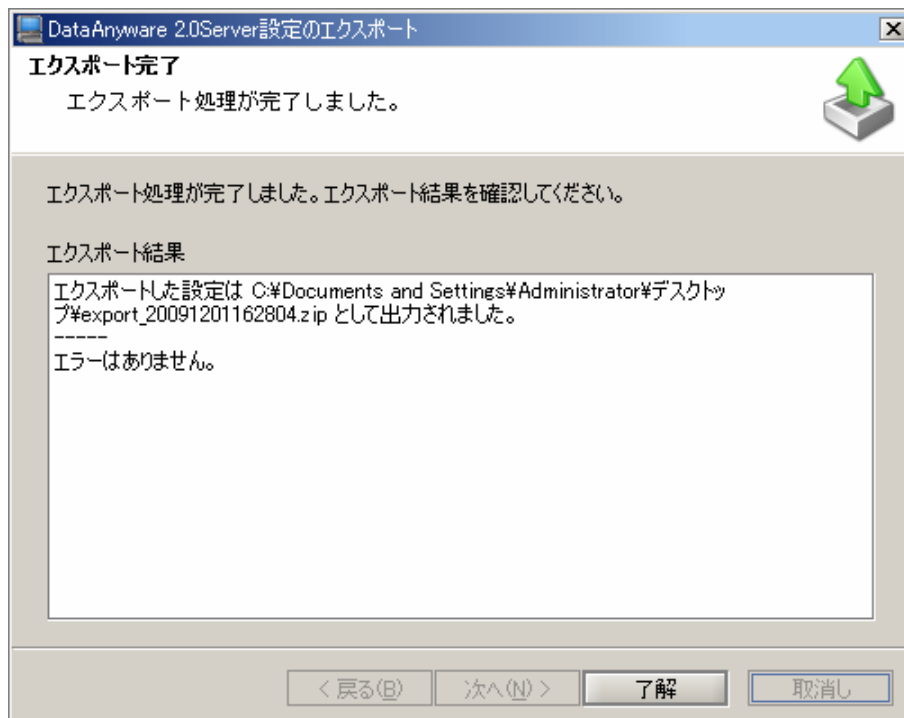
出力するトリガーの状態を設定する画面に遷移します。
デフォルトではチェックが入っておらず、現在の環境のトリガーの状態でエクスポートします。
設定を一律に有効/無効としてエクスポートする場合は、「トリガーを次の状態としてエクスポート」にチェックを
いれて、状態を指定した後、[次へ]ボタンを押下してください。



エクスポート先の選択画面に遷移します。
ファイル出力先を指定した後[次へ]ボタンを押下してください。

注意

出力する情報が多い場合、処理が完了するまで上記画面のままとなります。
処理は続行されていますので、[取消し]ボタンの押下など、
ウィンドウを閉じる動作をしないようにしてください。



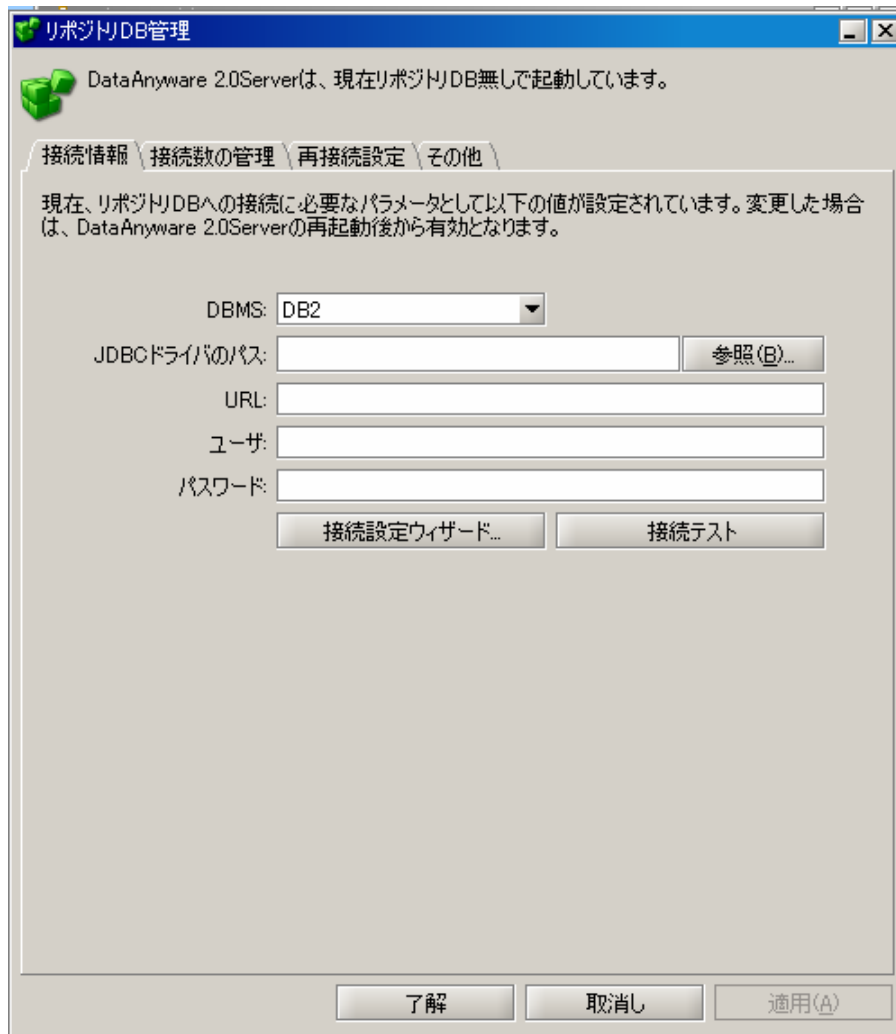
正常に終了すると上記のように表示されます。

3.3. リポジトリ DB の設定

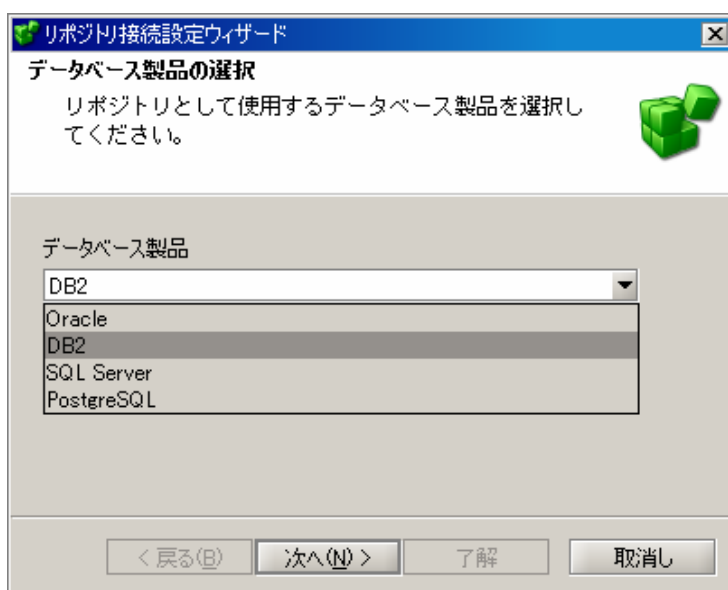
新機能ガイドの「リポジトリ DB」の項目を参照し、リポジトリ DB の準備、及び適用作業を行ってください。
以下に例として接続設定ウィザードを利用して DB2 上のデータベースをリポジトリ DB に指定する際の手順を記述します。



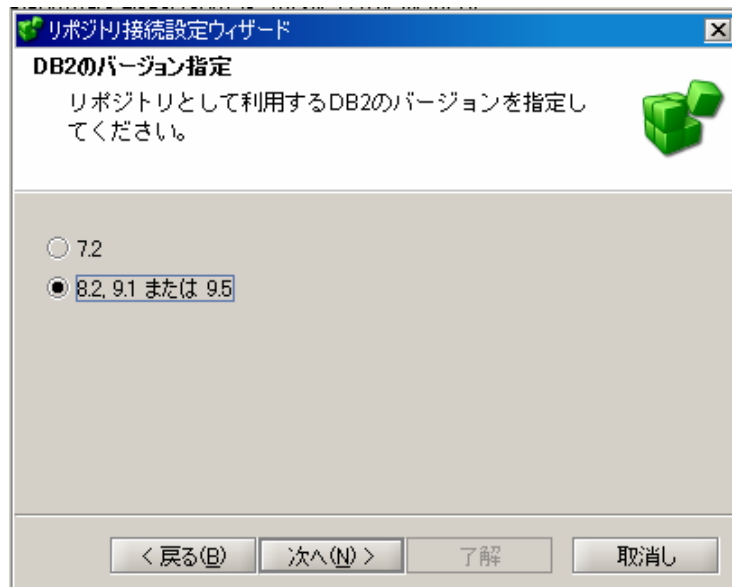
Studio にログインし、[コントロールパネル]を開いてください。ウィンドウが開くので「リポジトリ DB 管理」を選択してください。



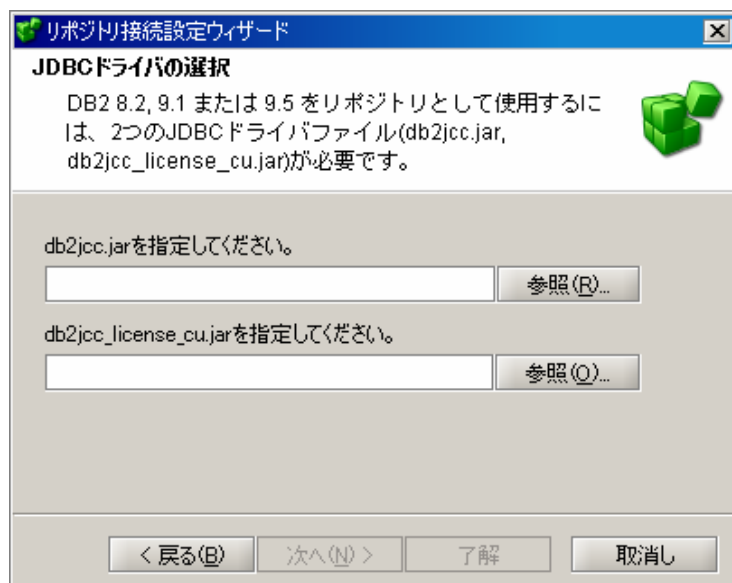
[リポジトリ DB 管理]画面が表示されます。画面から[接続設定ウィザード]ボタンを押下してください。



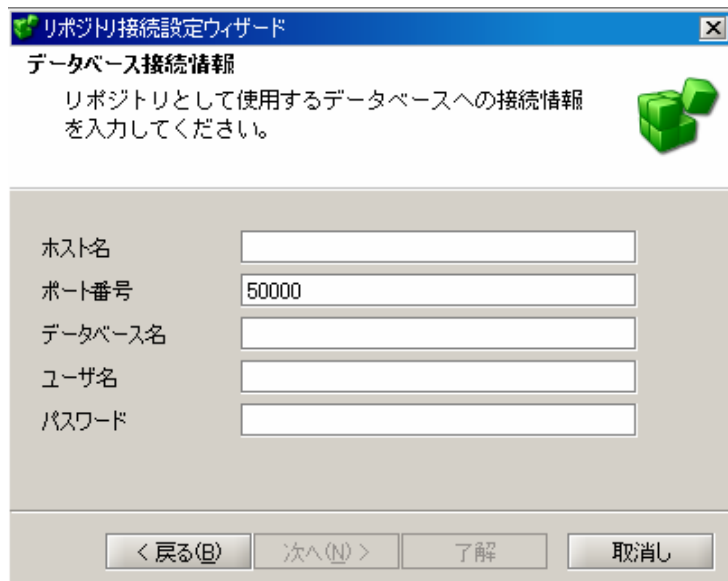
[データベース製品の選択]画面が表示されます。リポジトリ DB に指定するデータベースの種類を選択してください。ここでは例として、「DB2」を選択し、[次へ]ボタンを押下します。



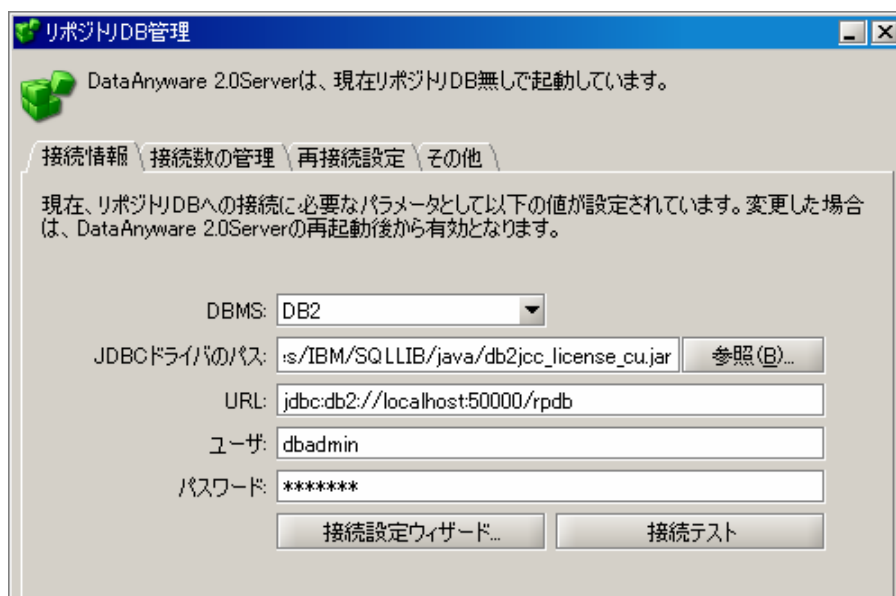
[DB2 のバージョン指定]画面が表示されます。・使用するデータベースのバージョンを選択してください。
ここでは例として、「8.2 9.1 または 9.5」を選択して[次へ]ボタンを押下します。



[JDBC ドライバの選択]画面が表示されます。指定されたファイルのパスを入力してください。[参照]ボタンを押下することでファイル選択ダイアログが表示されます。

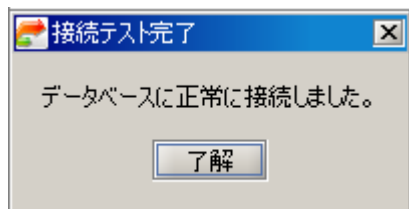


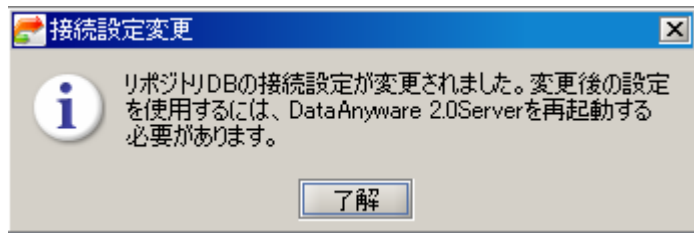
[データベース接続情報]画面が表示されます。リポジトリ DB に指定するデータベースの情報を入力してください。



接続設定ウィザードが終了し、[リポジトリ DB 管理]画面が表示されます。

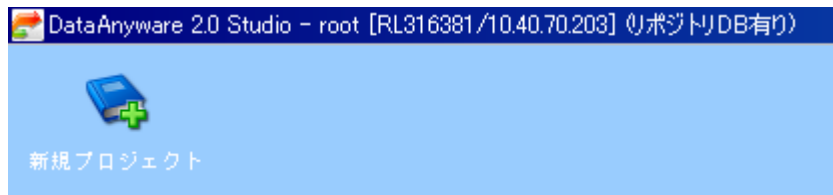
[接続テスト] ボタンを押下し、正常に接続できることを確認してください。正常に接続できれば、以下のメッセージが表示されます。





[了解]ボタンを押下すると、上記メッセージが表示されます。

Server、及び Studio を再起動してください。Studio のタイトルバーに「(リポジトリ DB 有り)」と表示されていればリポジトリ DB の適用は正常に行われています。引き続き、環境のインポートを行ってください。

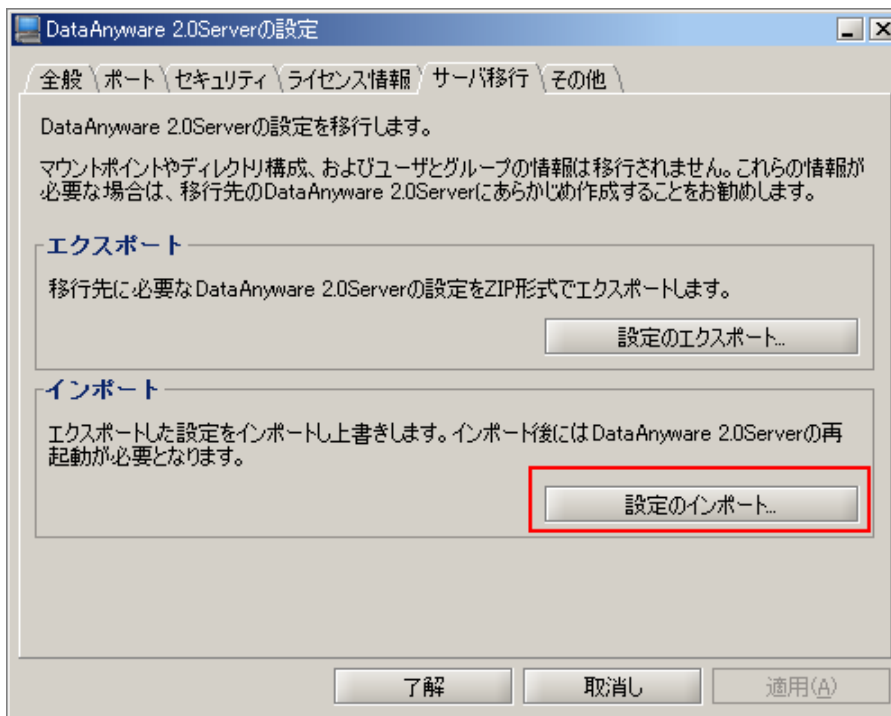


3.4. 環境のインポート

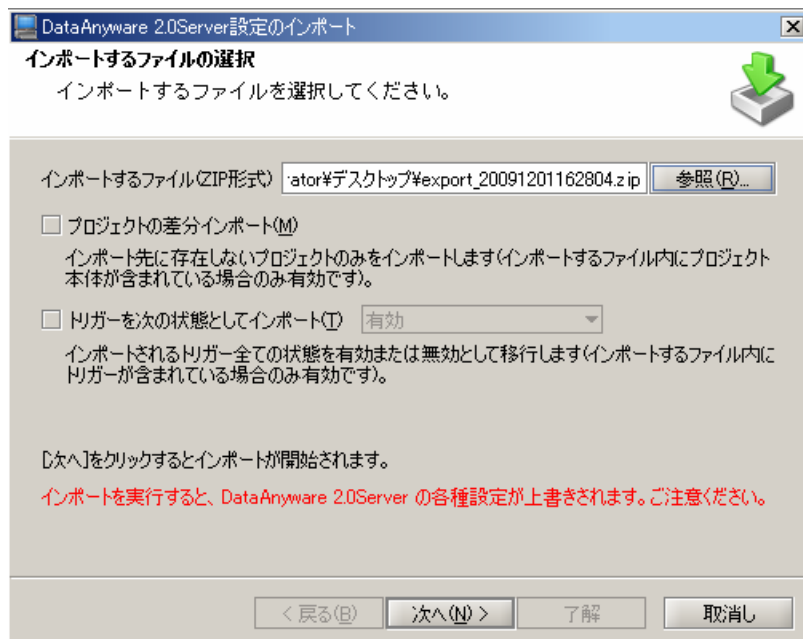
環境のインポートを行います。以下、Studio 上から環境のインポートを行う手順を記述します。



Server を起動し、ログインを行ってください。



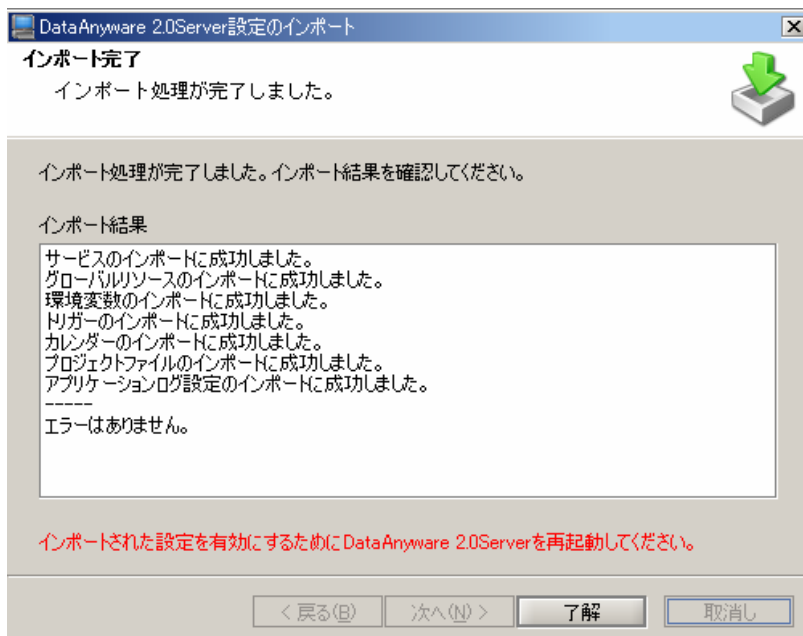
「サーバ移行」タブを表示して、[設定のインポート]ボタンを押下してください。



インポートするファイルを選択する画面に遷移します。
先ほどエクスポートしたファイルを選択して[次へ]ボタンを押下してください。

 **注意**

入力する情報が多い場合、処理が完了するまで上記画面のままとなります。
処理は続行されていますので、[取消し]ボタンの押下など、
ウィンドウを閉じる動作をしないようにしてください。



正常に終了すると上記のように表示されます。

 **注意**

設定を有効にする為には Server の再起動が必要です。



注意

データをインポートした際に「権限ファイルの取得に失敗しました」と表示されることがありますが、問題ございません。

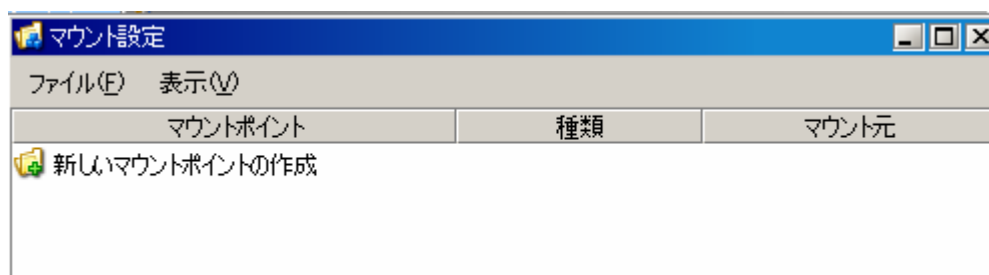
権限は、リポジトリ DB を使用した際にトリガー、プロジェクトなどに設定できる項目です。エクスポートされた環境がリポジトリ DB を適用していない場合、上記権限情報が含まれていない為、エラーとして表示されます。

3.5. 注意事項

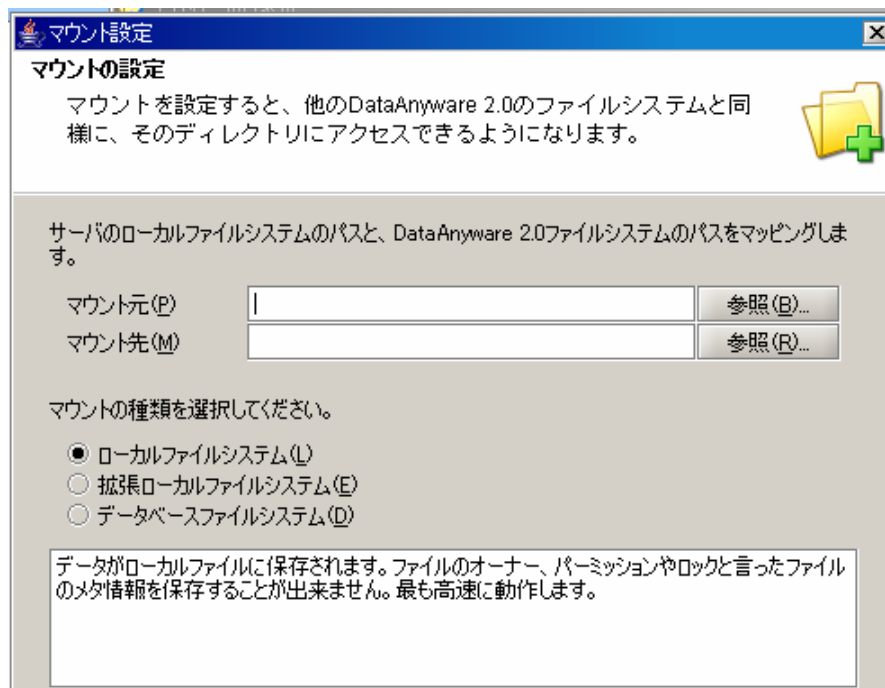
- リポジトリ DB を適用すると、DB 内にファイルシステムを構築するため、ローカルパスへのアクセスを行うことができません。ローカルパスを参照する場合は、参照するローカルパスに対してマウント設定を行ってください。以下に具体的な手順を記述します。



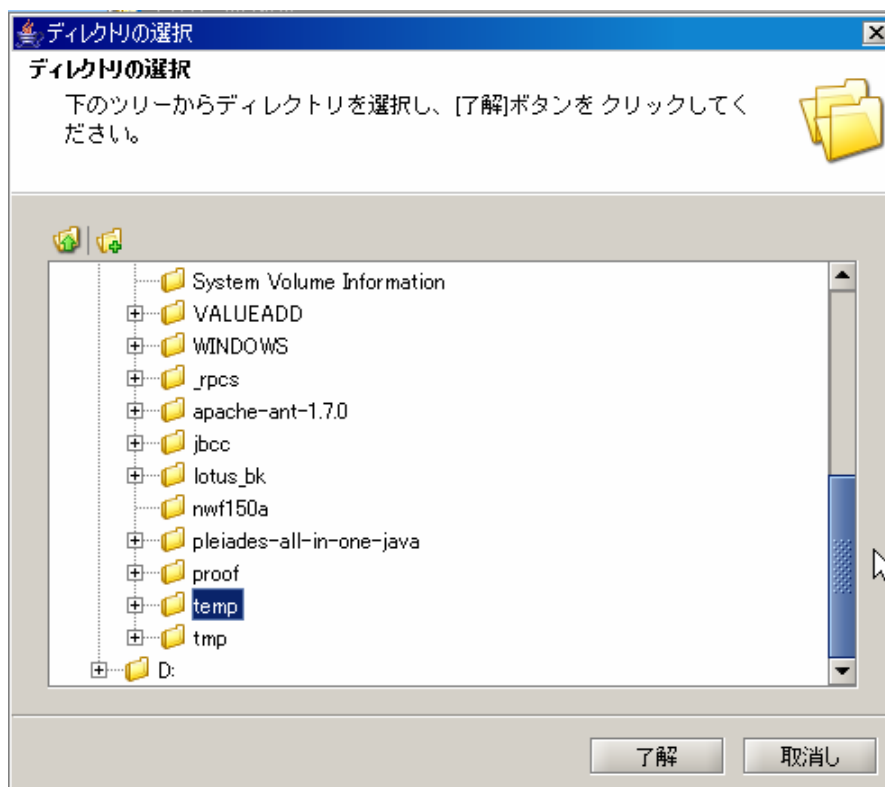
Studio にログインし、[コントロールパネル]を開いてください。ウィンドウが開くので「マウント設定」を選択してください。

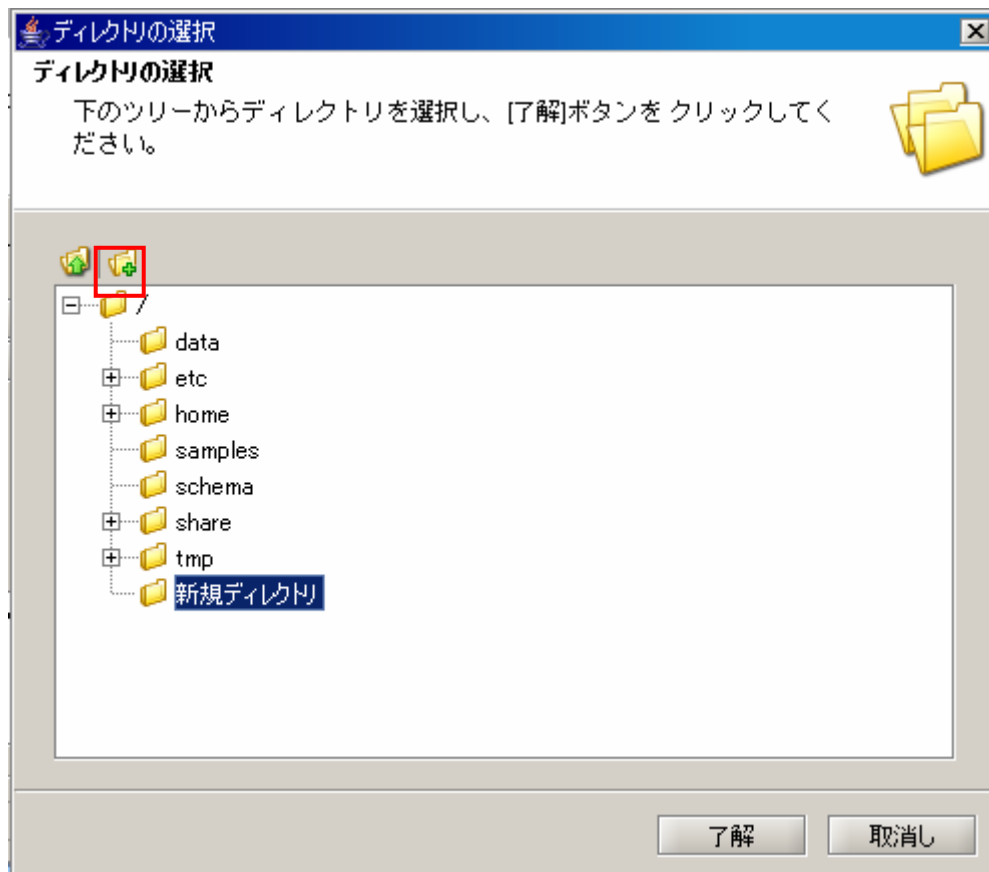


[マウント設定]画面が表示されます。「新しいマウントポイントの作成」を選択して句ってください。



[マウント設定]画面が表示されます。マウント元にローカルファイルパスを指定します。ここでは例として「C:\temp」をマウントします。[参照]ボタンを押下してマウント元になるフォルダを指定してください。

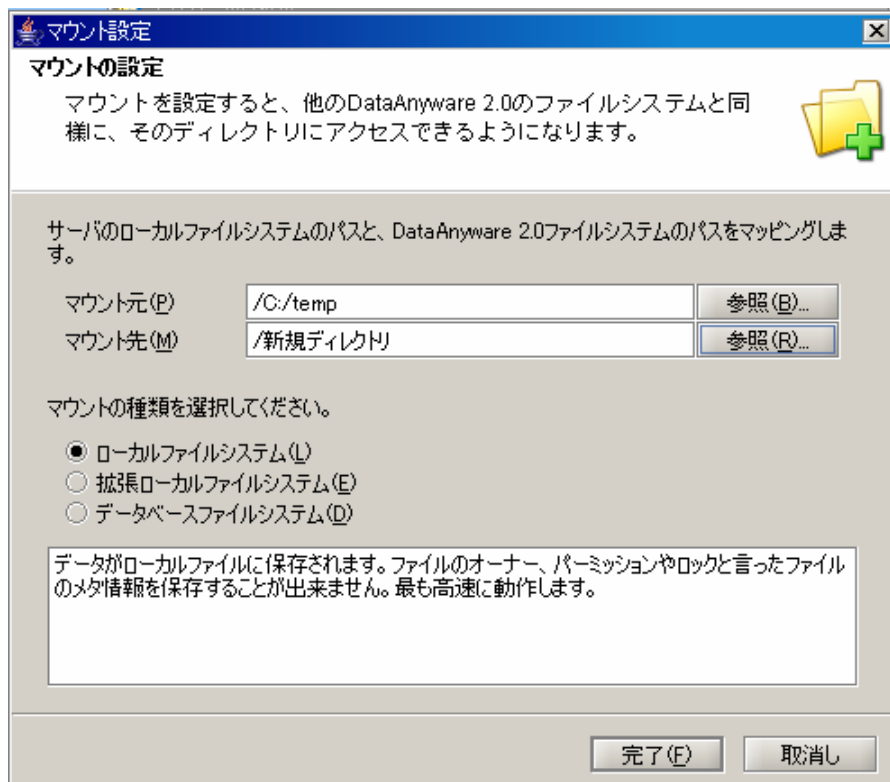




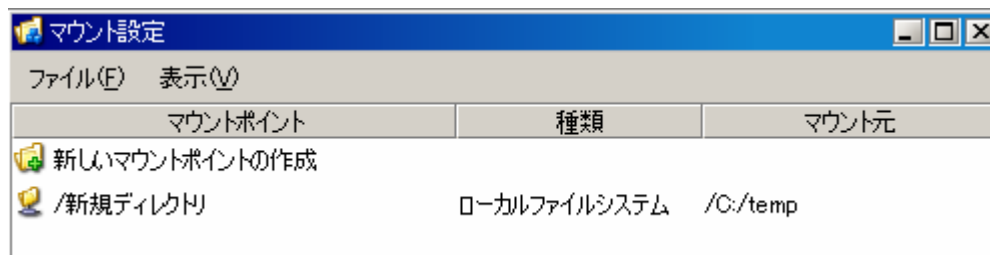
同様に「マウント先」にリポジトリ DB 内に構築されたファイルシステム内のフォルダを指定します。ここでは例として、マウント先に「新規ディレクトリ」を指定します。画面上のフォルダ追加アイコンをクリックし、ルートディレクトリ直下にフォルダを作成します。

 注意

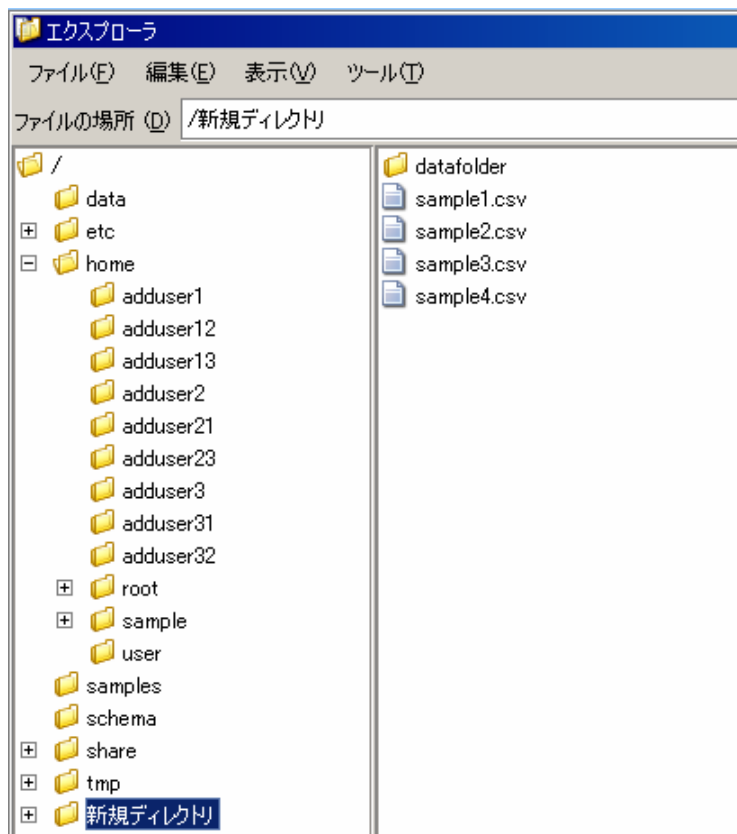
ルートディレクトリ直下にフォルダを作成した場合、フォルダはマウント専用のフォルダとなります。マウント先に指定しなかった場合、Server の再起動時にフォルダは削除されます。



マウント元、マウント先を指定した後、[完了]ボタンを押下してください。



新規のマウントポイントが作成されたことを確認した後、[マウント設定]画面を終了してください。



[エクスプローラ]を選択し、[エクスプローラ]ウィンドウを開いてください。

先ほどマウントしたフォルダが表示されていますので、ファイルを

リポジトリ DB への運用変更手順

第1版 2010 年 01 月 08 日

発行 JB アドバンスド・テクノロジー株式会社

〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3 丁目 9 番地 C 号ビル

お問い合わせ 弊社ホームページより、お問い合わせください。
<http://www.jbat.co.jp/>

本書は著作権上の保護を受けており、本書の全部あるいは一部に関して、JB アドバンスド・テクノロジー株式会社からの文書による許諾を得ず、無断で複写、複製することは禁じられています。また、本書はユーザーへ通知することなく変更される場合があります。

